

メディアセンター開設で広がるICT活動

竹原市立東野小学校 校長 芳川 真理

キーワード：タブレット型端末、電子黒板、PC教室、学校図書館、メディアセンター

実践の概要

本校では、PC教室と学校図書館を統合し、「読書センター」と「学習・情報センター」の機能を備えた、メディアセンターを開設した。メディアセンター開設により、児童の主体的、協同的な学習活動となる授業改善、さらに地域への情報発信などに取り組んでいった。

1. 目的・目標

(1) メディアセンター開設の目的

「児童が、より動きやすく、より協働しやすい学習空間にコンピュータ教室を変えることはできないだろうか。書籍とインターネットの良さを組み合わせた調べ学習をさせたい。」そんな教員の思いを叶えることができるよう、学校図書館にコンピュータ教室を統合したメディアセンターを開設した。

(2) メディアセンターにおけるICT活用の目標

書籍とタブレット端末を組み合わせて使うことで、調べ学習の質を向上させるとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成する。

2. 実践内容

2.1 メディアセンター(写真1)開設の過程

PC教室(写真2)と学校図書館(写真3)を統合し、メディアセンターを開設した。PC教室として機能する「学習・情報センター」のスペースでは、児童



写真1 メディアセンター

が協働しやすいように、4人で向かい合って座るようにタブレット端末を配置した。また机2つ分のワークスペースを作り、複数のタブ

レット端末画面を合体し話し合えるようにしていった。



写真2 旧PC教室



写真3 旧学校図書館

統合における作業は、建築士1級の免許を要する読書活動推進員や読書ボランティアの方、竹原市教育委員会の協力を得ながら、夏休みに職員で行った。

2.2 メディアセンターの活用した授業例

(1) 6年 社会科「江戸の社会の文化・学問」

(スカイメニューークラス使用)

第1時で課題を発見した後、第2時で資料収集を行った。その時に、タブレット端末のカメラ機能を活用した。(写真4)

これまでの調べ学習は、テーマや課題にあう資料を見つけたら、ノートに読み取ったことを書いていた。



写真4 カメラ機能使用

また、新聞などにまとめようとした時には、欲しい資料に付箋をして、コピーを取り、切ってはるという作業を行っていた。カメラ機能で写真にとり資料収集させることにより、資料を比較することができ、自分のテーマにあう資料を選択する力がついて行った。

6年 社会科学習指導案 児童数15名

●単元名 江戸の社会と文化・学問

●指導目標

・江戸時代の人々はどんな暮らしをしていたのかという課題に対し、江戸の町の様子、盛んになった産業、町人文化、新しい学問の4つの視点で調べさせ、調べた資料を活用して課題解決に向け考え、まとめたことを表現する力を育てる。

●評価

・4つの視点について意欲的に調べ、考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

・自分で調べたことと友達が調べたことをもとに、課題解決に向け考えたことや調べたことを適切に表現している。【思考・判断・表現】

・書籍やインターネットで習得し効果的に活用して具体的に調べ、目的に応じた方法でわかりやすくまとめている。【観察・技能】

・4つの視点について調べ、産業が発達したこと、流通経路の整備や販売の工夫により、町人が力をつけていったこと、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことを理解している。【知識・理解】

時間	学習内容	留意点
1時	江戸時代の人々の暮らしの絵を見て、課題をつくる。	多様な問いを引出す。
2時	課題から4つのテーマに分け、自分の調べる担当を決める。書籍で資料を収集する。	できるだけ多くの資料をカメラで収集させる。
3時	収集した資料をグループで分類・整理する。それぞれが詳しくまとめる小テーマを決める。	タブレット端末の画面合体機能を活用させる。
4時	自分が担当する部分の資料を読み、まとめる。インターネット資料も活用し、くわしくまとめる	課題解決のためどんな資料がさらに必要か考えさせる。
5時	グループで持ち寄り、内容の確認、手直しをする。	グループ討議の時間を十分確保する。
6時	発表をする。	聞く視点を示す。
7時	単元全体のまとめをする。	4つの視点のつながりを押さえる。

第3時では、収集した資料をグループで共有し、分類をしていった。その時に、タブレット端末の画面合体機能を使用し、友達が見つけた資料の中で自分のまともめていく小テーマにあう資料を取り込んでいった。



写真5 画面合体機能を使用

情報を共有することで、自然と意見の交流が生まれ、より協働的な学習となった。

第4時ではインターネット資料も活用し、第5時で発表内容を修正していった。伝えたいところの文字を強調したり、矢印を使ったり、相手に伝わりやすくするためにはどうすればいいかを話し合っ、一人一人がまとめた



写真6 電子黒板を使用

資料を活用し、グループの発表資料を作成していった。

第6時で電子黒板に投影して発表をした。(写真6) 従来の模造紙でまとめるやり方は、ともすればリーダー的存在の児童が一人でまとめてしまいがちだったが、タブレット端末を使用したことで、一人一人の考えを生かすことができた。

(2) 6年 外国語活動 LESSON5「Let's go to Italy」

第4時「おすすめの国を紹介するための準備をしよう」では、本時の目標を「おすすめの国のプレゼンを作る」とし、書籍とインターネットを使いその国の有名な食べ物や名所を調べたり、言い方を、ALTの先生に聞いたりして、プレゼンを作成した。(写真7)

教師は、あらかじめプレゼンのフォーマットをパワーポイントで作成をし、それを児童のタブレット型端末に配布しておい



写真7 プレゼン

た。学習のゴールでは一人一人が旅行会社の社員になって自分のおすすめの国を紹介し、お客さんになって行きたい国を見つけるという活動を仕組んだ。

単元のゴールが児童の意欲を高めたこと、プレゼンづくりの時に教師があらかじめフォーマットを作成していたことがより主体的な学びにつながった。

2.3 メディアセンターで地域や他学年と交流した活動例

6年生が卒業プロジェクトとして、公民館とタイアップし、ICT教室を開いた。その年に、ちょうどメディアセンターが新設されたので、その良さを伝えること、地域の方としっかりとコミュニケーションをとること、日

頃の感謝を伝えることを目的とした。

文字入力の仕方の一つ一つ丁寧に伝え、子どもたち一人一人が先生となり、活動を行った。(写真8)

タブレット型端末を一つのツールとして、地域の方とコミュニケーションをとることができ、新しくできたメディアセンターを知ってもら



写真8 地域対象 ICT教室

こともでき、なおかつ一人一人が有用感も感じることもできた。同じく卒業プロジェクトとして、6年生が他学年対象のICT教室を開いた。下級生の質問に対応できるように、事前に6年生児童が



写真9 下級生対象 ICT教室

自主的に下級生に教える活動の予習をしたり、わかりやすい説明の言葉を練習したりする姿が見られた。(写真9)

3. 成果

(1) 児童の変容

・より主体的に学習に取り組むようになり、調べ学習の質の向上が見られた。

・従来のコンピュータ教室の学習は、一人で取り組むことが基本だったが、メディアセンターになり、グループ学習の形態が取りやすくなったことで、児童同士の学びの質を高める会話が増えた。

・資料を根拠に意見を発表する活動を多く取り入れることで、論理的な思考力が向上した。

・児童同士や児童と地域等との絆が深まった。

(2) 教師の変容

・教材準備や指導が効率的になった。

・児童の作成した成果物から、教材を開発したり、新しい単元構成づくりに取り組んだりするなど、教材研究に意欲的に取り組むようになった。

・調べ学習の時、学校図書館とコンピュータ教室に児童が分散しないので、指導がしやすくなった。

4. 今後に向けて

教員の願いがスタートとなり、多くの人に協力を得て、決められた予算の中で教職員の手作りで生まれたメディアセンターは、今は本校の教育を進めていく上で、なくてはならない存在となっている。常にメディアセンターは開放をしているので、児童が自然に集まる場にもなっている。今後も、アクティブラーニングを実践していく場、地域や児童同士のコミュニケーションをとる場として、さらに活動を広げていきたい。